

初等教育における 筆順指導の現状について

秋 山 英 治

1. はじめに

国語教育・日本語教育における漢字学習・指導がどのような状況にあるのかを明らかにするために、秋山英治（2012）では、筆順指導に焦点をあててアンケート調査を行い、その結果について報告した。そこでは、初等教育における筆順指導の実態および小学生の意識について、「性別」という観点から分析を行い、「男子は女子よりも筆順指導の期間が長いこと」「漢字を書くときに、男子は『早さ』を一番に重視するが、女子は『きれいさ』や『読みやすさ』など一つに絞らずさまざまな点に注意する傾向にあること」などを明らかにした。

今回、新たに「学校別」という観点から分析を行った。本稿では、その分析結果について述べる。

2. 調査方法及び分析方法

アンケート調査は、【表1】に示したように、6校の小学校の協力を仰ぎ、合計377人の回答を得た。当初、アンケート調査を、低学年（1・2年生）・中学年（3・4年生）・高学年（5・6年生）の3学年層に実施する予定であった。しかし、小学校教員の方から、低学年・中学年に実施するのは困難であるという指摘を受け、高学年（5・6年生）のみを対象として実施した。

【表1】小学校

単位（人）

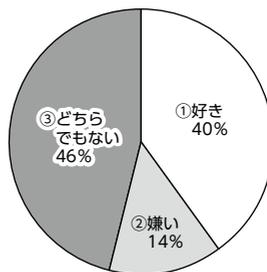
	男子	女子	合計
①東京学芸大学附属小金井小学校	33	37	70
②金沢大学附属小学校	38	29	67
③岡山大学教育学部附属小学校	29	30	59
④香川大学教育附属高松小学校	20	19	39
⑤愛媛大学教育学部附属小学校	38	38	76
⑥宮崎大学教育文化学部附属小学校	34	32	66
合 計	192	185	377

本稿では、学校によってどのような傾向が見られるか、学校ごとの特徴および学校間の差を明らかにするため、【表1】の①から⑥の6校ごとに結果を分析した。ただし、分析結果については、学校名が特定されないように、ランダムに学校を並べ替え、「A小学校生」から「F小学校生」とアルファベットで表記した。以下、「学校別」の分析結果をみていく¹⁾。

3. 調査結果及び分析

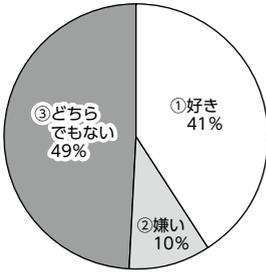
3.1. 漢字学習に対する好き嫌いについて

漢字学習が好きか嫌いかについて、3つの選択肢「①好き」「②嫌い」「③どちらでもない」を設け、尋ねた。その結果を、A小学校生からF小学校生に分けて示すと、【図①A】から【図①F】のようになる。併せて、小学校全体（平均）の結果を【図①】として示す²⁾。

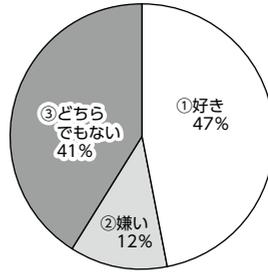


【図①】小学生全体

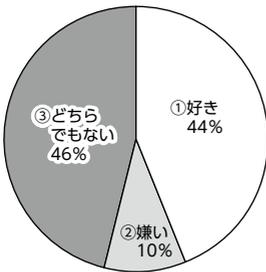
初等教育における筆順指導の現状について



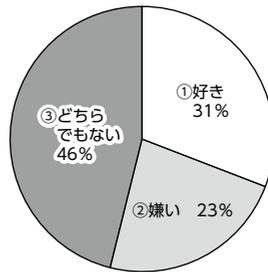
【図①A】 A小学校生



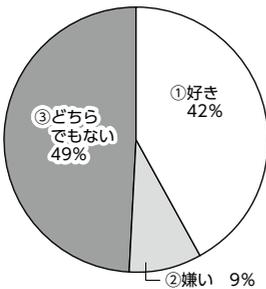
【図①B】 B小学校生



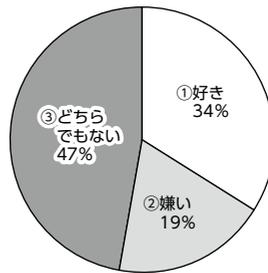
【図①C】 C小学校生



【図①D】 D小学校生



【図①E】 E小学校生



【図①F】 F小学校生

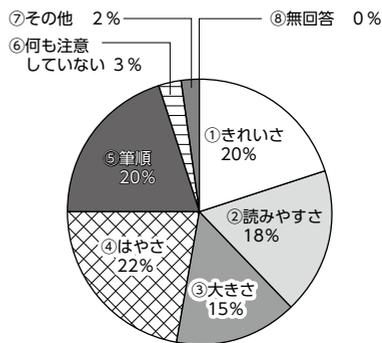
【図①】より、小学生全体（平均）の結果は、「①好き」が40%、「②嫌い」が14%、「③どちらでもない」が46%である。

若干の違いはあるものの、この結果とほぼ同様の結果を示しているのが、A小学校生・B小学校生・C小学校生・E小学校生である。これら4校生と違って、「①好き」の比率が低く、また「②嫌い」の比率が高くなっているのが、D小学校生とF小学校生である。

D小学校生・F小学校生は、ともに「①好き」の比率が30%強、「②嫌い」の比率が20%前後で、ほぼ同様の結果を示している。このうちD小学校生は、「①好き」の比率が、最も高いB小学校生より16%低く、「②嫌い」の比率が、最も低いE小学校生より14%高く、漢字学習に対してかなり否定的な意識を有している。全体的な傾向としては、漢字学習に肯定的な意識を有する小学生が多いものの、否定的な意識を有する小学生が他校の2倍程度いる小学校もあることがわかる。

3.2. 漢字を書くときの注意点について

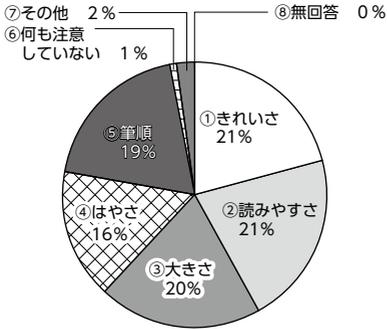
漢字を書くときの注意点について、7つの選択肢「①きれいさ（美しさ）」「②読みやすさ」「③大きさ」「④はやさ（スピード）」「⑤書き順（筆順）」「⑥何も注意していない」「⑦その他」を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、A小学校生からF小学校生に分けて示すと、【図②A】から【図②F】のようになる。併せて、小学校全体（平均）の結果を【図②】として示す。



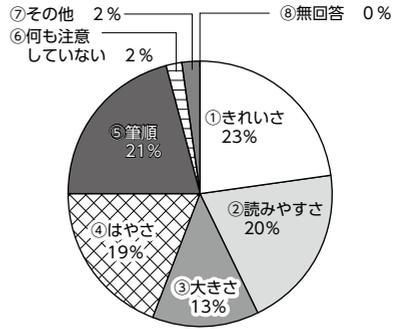
【図②】小学生全体

【図②】より、小学生全体（平均）の結果は、「④はやさ（スピード）」が22%で最も比率が高い。しかし、その他の選択肢についても、「①きれいさ（美しさ）」「⑤書き順（筆順）」が20%、「②読みやすさ」が18%、「③大きさ」が

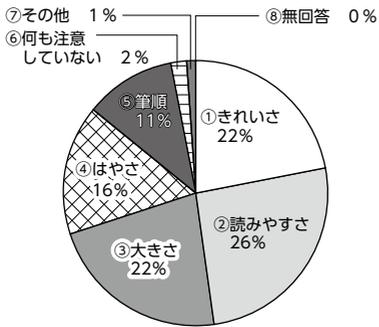
初等教育における筆順指導の現状について



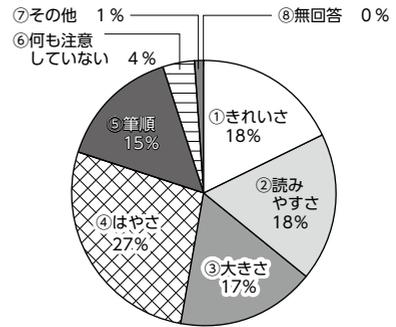
【図②A】 A小学校生



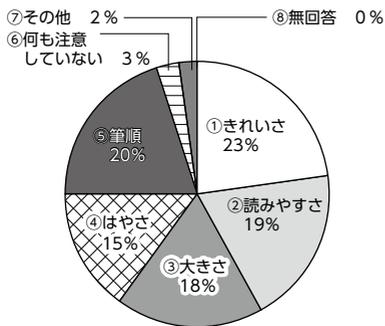
【図②B】 B小学校生



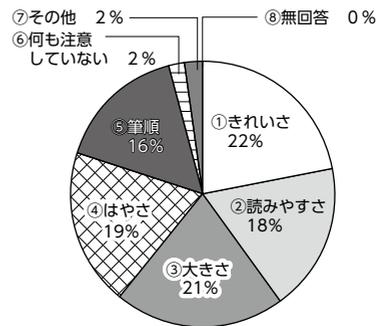
【図②C】 C小学校生



【図②D】 D小学校生



【図②E】 E小学校生



【図②F】 F小学校生

15%で、大きな差はない。「⑥何も注意していない」が3%であることから、複数のことに注意して漢字を書いていることがわかる。

若干の違いがあるものの、この結果とほぼ同様の結果を示しているのが、A小学校生・B小学校生・C小学校生・E小学校生・F小学校生である。これら5校生とやや違った結果を示しているのが、D小学校生で、「④はやさ（スピード）」が27%で、他校生よりも比率が高く、「はやさ」が重視されていることがわかる。

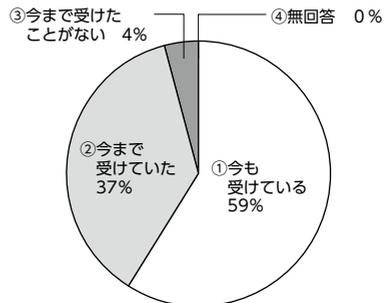
各選択肢について、学校間の差を見ると（「⑦その他」「⑧無回答」は除く）、次のようになる。

- ①きれいさ（美しさ）： 18%～23%（5%差）
- ②読みやすさ： 18%～26%（8%差）
- ③大きさ： 13%～22%（9%差）
- ④はやさ（スピード）： 15%～27%（12%差）
- ⑤書き順（筆順）： 11%～21%（11%差）
- ⑥何も注意していない： 1%～4%（3%差）

差が10%以上あるのは、「④はやさ（スピード）」「⑤書き順（筆順）」で、学校間の差が大きい。しかし、「①きれいさ（美しさ）」は、その差が5%で、「⑥何も注意していない」に続いて学校間の差が小さい。「きれいに漢字を書く」ということは、どの学校においても重視されているということであろう。

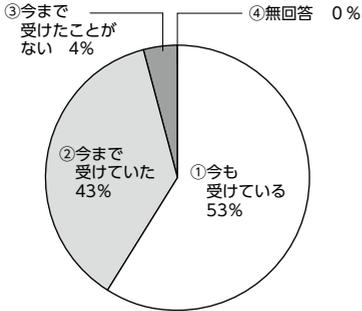
3.3. 筆順指導の有無について

筆順指導を受けているか、その有無について、3つの選択肢「①今も受けている」「②今は受けていないが受けたことがある」（図では「今まで受けていた」）「③今まで受けたことがない」を設け、尋ねた。その結果を、A小学校生からF小学校生に分けて

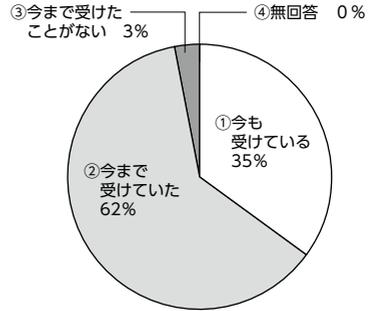


【図③】小学生全体

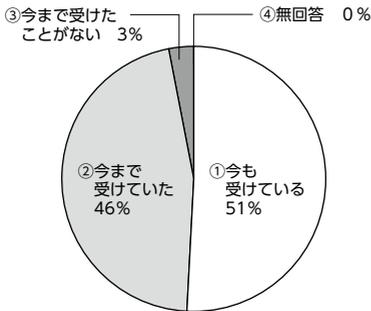
初等教育における筆順指導の現状について



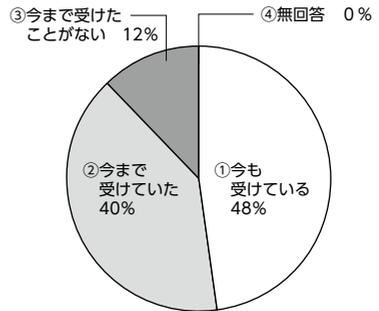
【図③A】 A小学校生



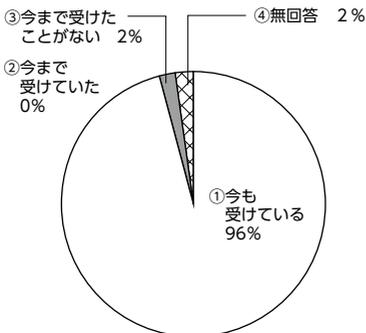
【図③B】 B小学校生



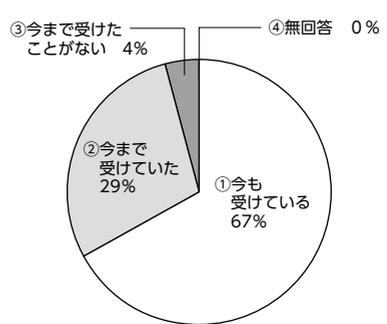
【図③C】 C小学校生



【図③D】 D小学校生



【図③E】 E小学校生



【図③F】 F小学校生

示すと、【図③A】から【図③F】のようになる。併せて、小学校全体（平均）の結果を【図③】として示す。

【図③】より、小学生全体（平均）の結果は、「①今も受けている」が59%、「②今は受けていないが受けたことがある」が37%、「③今まで受けたことがない」が4%である。「②今は受けていないが受けたことがある」と回答した小学生については、具体的な時期も尋ねているが、その約7割が小学校4年生（中学年）までという回答であった。

若干の違いがあるものの、この結果と同様の結果を示しているのが、A小学校生・C小学校生である。一方、B小学校生・E小学校生・F小学校生は、小学校全体（平均）と大きく異なった結果を示している。

B小学校生は、「②今は受けていないが受けたことがある」が62%で最も比率が高く、半数以上の小学生が以前筆順指導を受けていたと回答している。具体的な時期については、約8割が「小学校6年生前半まで」と回答している。この結果から、B小学校では、高学年まで筆順指導が行われている、つまり漢字指導において筆順指導を高学年にいたるまで重視していることがわかる³⁾。

E小学校生・F小学校生は、「①今も受けている」が最も比率が高い。特にE小学校生の比率は96%で、ほぼ全員が現在も筆順指導を受けている。E小学校では、高学年にいたるまで筆順指導が重視されていることがわかる。ただし、F小学校生は、E小学校生とやや状況が異なる。

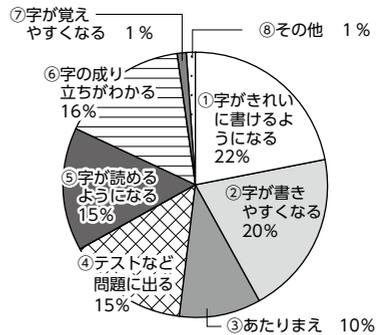
F小学校生については、7割近くが「①今も受けている」を回答しており、E小学校ほどではないものの、F小学校においても高学年まで筆順指導が重視されているように見える。しかし、3割近い小学生が回答した「②今は受けていないが受けたことがある」について、その具体的な時期を見ると、半数の小学生が「小学校2年生まで」、残る小学生の大半が「小学校3年生まで」あるいは「小学校4年生まで」と回答しており、低学年あるいは中学年までしか筆順指導が行われていない。このことから、F小学校では、「筆順指導を重視し、高学年にいたるまで行う教員」と「筆順指導をそれほど重視せず、中学年までしか行わない教員」がいると考えられる。同一の小学校内においても、教員間

による差があるということであろう。

以上の結果から、筆順指導は、多くの小学校で中学年（小学校4年生）までは重視して行われるが、高学年にいたっては、重視して引き続き行う学校とそれほど重視せず行わなくなる学校があること、また同一の小学校においても、高学年では、重視して引き続き行う教員とそれほど重視せず行わなくなる教員がいる（高学年における筆順指導は、教員の裁量に任されている）ことがわかる。

3.3.1. 筆順指導を受ける理由について

3.3. の質問で、筆順を「①今も習っている」「②今は習っていないが習ったことがある」と回答した小学生に、筆順を習っている（習った）理由について、8つの選択肢「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」（図では「あたりまえ」）「④テストなど問題に出るから」「⑤字が読めるようになるから」「⑥字の成り立ちがわかるから」「⑦字が覚えやすくなるから」「⑧その他」を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、A小学校生からF小学校生に分けて示すと、【図③-1A】から【図③-1F】のようになる。併せて、小学校全体（平均）の結果を【図③-1】として示す。

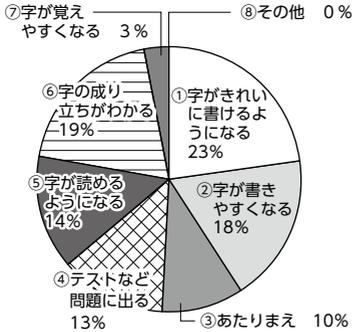


【図③-1】小学生全体

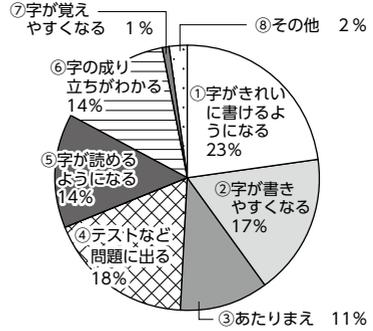
から「⑥字の成り立ちがわかるから」「⑦字が覚えやすくなるから」「⑧その他」を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、A小学校生からF小学校生に分けて示すと、【図③-1A】から【図③-1F】のようになる。併せて、小学校全体（平均）の結果を【図③-1】として示す。

【図③-1】より、小学生全体（平均）の結果は、「①字がきれいに書けるようになる」が22%で最も比率が高く、その次に20%の「②字が書きやすくなる」、15%の「④テストなど問題に出る」「⑤字や読めるようになる」「⑥字の成り立ちがわかるようになる」が続いている。

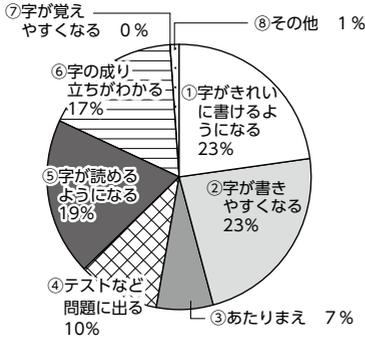
若干の違いがあるものの、この結果とA小学校生からF小学校生の結果はほぼ同様であり、学校間による差があまりないことがわかる。



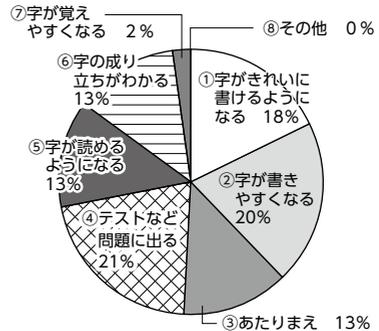
【図③-1 A】A小学校生



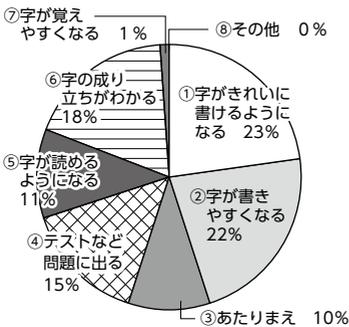
【図③-1 B】B小学校生



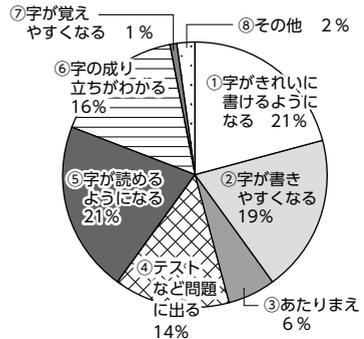
【図③-1 C】C小学校生



【図③-1 D】D小学校生



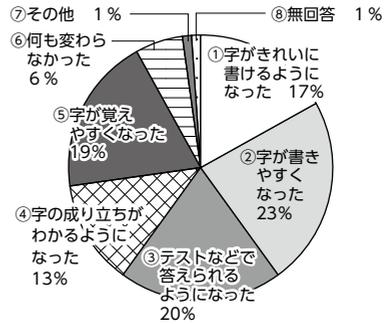
【図③-1 E】E小学校生



【図③-1 F】F小学校生

3.3.2. 筆順指導を受けての変化について

3.3. の質問で、筆順を「①今も習っている」「②今は習っていないが習ったことがある」と回答した小学生に、筆順指導を受けてどのような変化があったかについて、7つの選択肢「①字がきれいに書けるようになった」「②字が書きやすくなった」「③テストなどで答えられるようになった」「④字の成り立ちがわかるようになった」「⑤字が読めるようになった」「⑥何も変わらなかった」「⑦その他」を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、A小学校生からF小学校生に分けて示すと、【図③-2 A】から【図③-2 F】のようになる。併せて、小学生全体（平均）の結果を【図③-2】として示す。



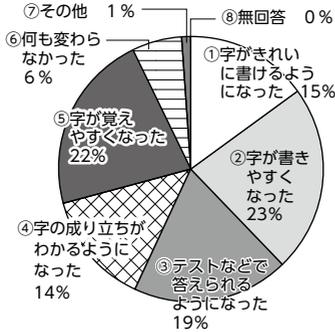
【図③-2】小学生全体

【図③-2】より、小学生全体（平均）では、「②字が書きやすくなった」が23%で最も比率が高く、その次に20%の「③テストなどで答えられるようになった」、19%の「⑤字が覚えやすくなった」、17%の「①字がきれいに書けるようになった」が続いている⁴⁾。

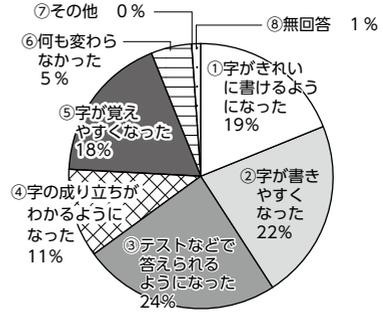
若干の違いがあるものの、E小学校生を除く他の5校生は、この結果とほぼ同様の結果を示している。

若干の違いがあるものの、E小学校生を除く他の5校生は、この結果とほぼ同様の結果を示している。

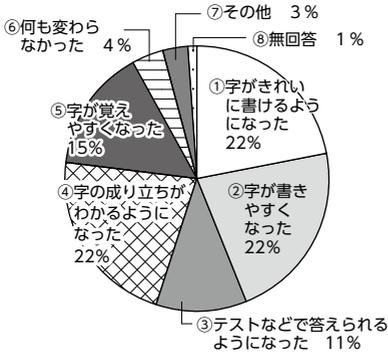
E小学校生は、他の小学校生と比べて、「②字が書きやすくなった」の比率が高く、「④字の成り立ちがわかるようになった」の比率が低い。E小学校生を除く他の5校生は、筆順指導による指導の成果として、「①字がきれいに書けるようになった」「②字が書きやすくなった」「③テストなどで答えられるようになった」「④字の成り立ちがわかるようになった」「⑤字が読めるようになった」の5つの選択肢の比率が比較的近く、種々の成果を実感している。しかし、E小学校生は、「④字の成り立ちがわかるようになった」の比率が低く、他の小学校生よりも筆順指導の効果を限定的に意識している。



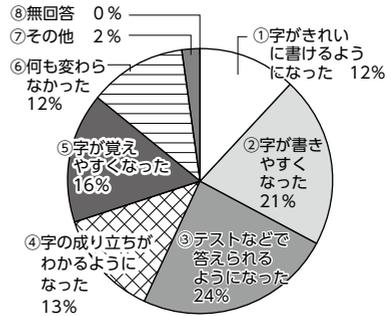
【図③-2A】A小学校生



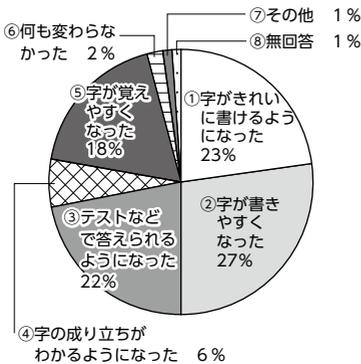
【図③-2B】B小学校生



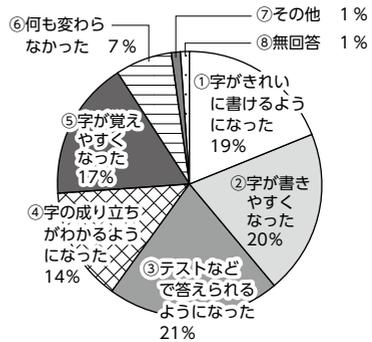
【図③-2C】C小学校生



【図③-2D】D小学校生



【図③-2E】E小学校生

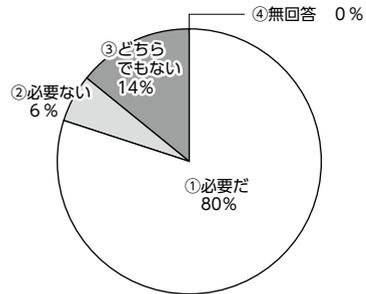


【図③-2F】F小学校生

以上の結果から、E小学校生がやや異なった結果を示しているものの、大半の小学校生はほぼ同様の結果を示しており、学校間による差があまりないことがわかる。

3.4. 筆順指導の必要性について

筆順指導の必要性について、3つの選択肢「①必要だ」「②必要ない」「③どちらでもない」を設け、尋ねた。その結果を、A小学校生からF小学校生に分けて示すと、【図④A】から【図④F】のようになる。併せて、小学校全体（平均）の結果を【図④】として示す。



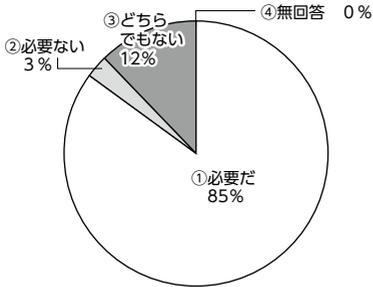
【図④】 小学生全体

【図④】より、小学生全体（平均）の結果は、「①必要だ」が80%、「②必要ない」が6%、「③どちらでもない」が14%と、8割の小学生が筆順指導を「必要だ」と意識している。

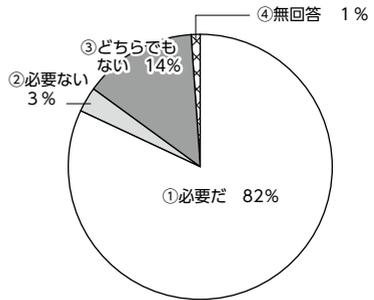
若干の違いがあるものの、この結果とほぼ同様の結果を示しているのが、A小学校生・B小学校生・E小学校生である。一方、これら3校生と違った結果を示しているのが、C小学校生・D小学校生・F小学校生である。

C小学校生は、「①必要だ」が90%で、全6校の中で最も高い比率を示している。最も低いD小学校生と比べると20%近い差があり、筆順指導の必要性を非常に強く意識している。

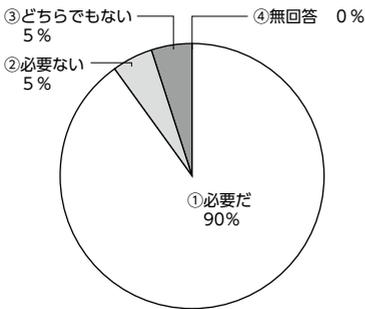
一方、D小学校生・F小学校生は、「①必要だ」の比率が70%強で、他の小学校生ほど筆順指導の必要性を意識していない。上記したように、特にD小学校生は、「①必要だ」の比率が全6校の中で最も低い。また、「②必要ない」の比率についても、小学生全体（平均）が6%の中、15%と10%近く高くなっており、筆順指導の必要性に対して否定的な意識を有していることがわかる。



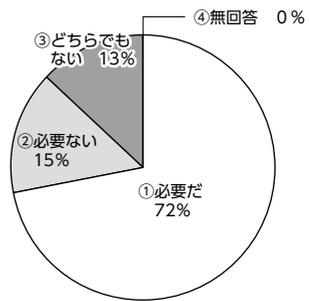
【図④A】 A小学校生



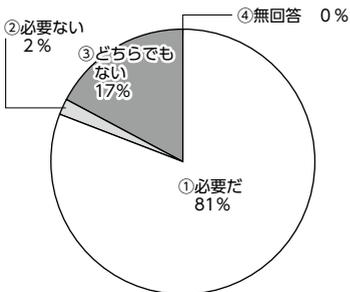
【図④B】 B小学校生



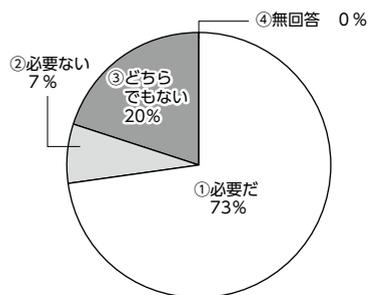
【図④C】 C小学校生



【図④D】 D小学校生



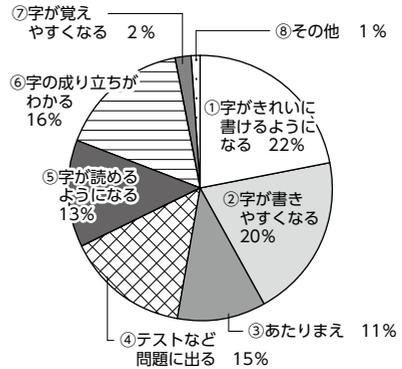
【図④E】 E小学校生



【図④F】 F小学校生

3.4.1. 筆順指導が必要である理由について

3.4. の質問で筆順指導が「①必要だ」と回答した小学生に、筆順指導が必要な理由について、8つの選択肢「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」（図では「あたりまえ」）「④テストなど問題に出るから」「⑤字が読めるようになるから」「⑥字の成り立ちがわかるから」「⑦字が覚えやすくなるから」「⑧そ



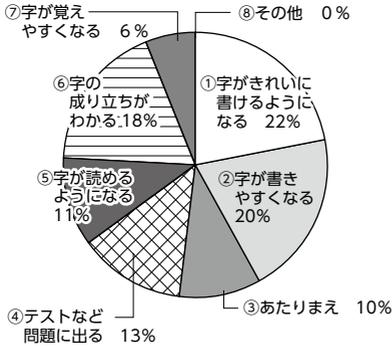
【図④-1】小学生全体

の他」を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、A小学校生からF小学校生に分けて示すと、【図④-1 A】から【図④-1 F】のようになる。併せて、小学校全体（平均）の結果を【図④-1】として示す⁵⁾。

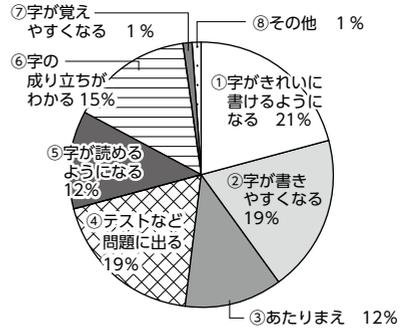
【図④-1】より、小学生全体（平均）の結果は、「①字がきれいに書けるようになるから」が22%で最も比率が高く、その次に20%の「②字が書きやすくなるから」、16%の「⑥字の成り立ちがわかるから」、15%の「④テストなど問題に出るから」が続いている。その他の選択肢も、「⑤字が読めるようになるから」が13%、「③筆順を習うのはあたりまえだから」が11%と、6つの選択肢が10%を超えており、筆順指導が必要な理由が幅広く意識されている。「⑧その他」を除き、唯一10%を下回っているのが、「⑦字が覚えやすくなるから」で、字を覚えることと筆順との関係性はあまり意識していないようである。

若干の違いはあるものの、この結果とA小学校生からF小学校生の結果はほぼ同様の結果を示しており、学校間による差はあまりない。

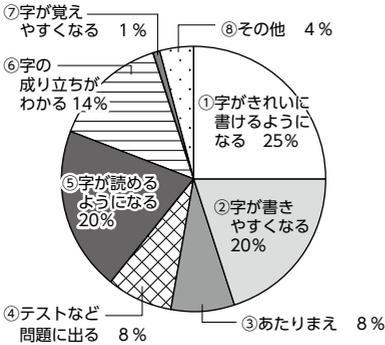
ただし、C小学校生は、「④テストなど問題に出るから」が8%と、他校よりやや比率が低くなっている。C小学校生は、3.3.2.「筆順指導を受けての変化」においても、「③テストなどで答えられるようになった」の比率が、6校生の中で最も低い。C小学校生で「テスト」に関する比率が低くなっているのは、



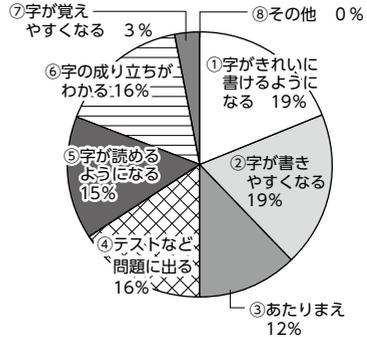
【図4-1A】A小学校生



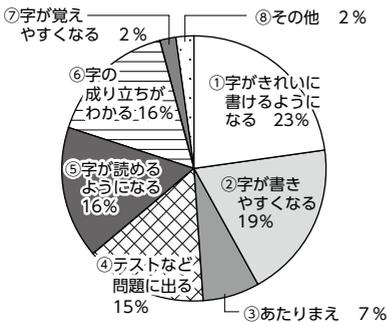
【図4-1B】B小学校生



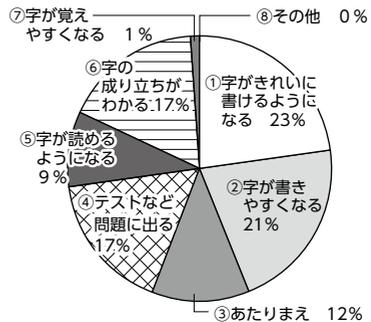
【図4-1C】C小学校生



【図4-1D】D小学校生



【図4-1E】E小学校生

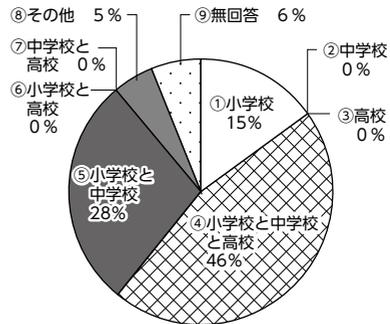


【図4-1F】F小学校生

3.3. 「筆順指導について」で述べたように、筆順指導の期間は多くの小学校が小学校4年生（中学年）まで（C小学校も同様）であり、高学年では筆順に関する問題がテスト等であまり出ないためと考えられる⁶⁾。

3.4.2. 筆順指導に適切な時期について

3.4.の質問で筆順指導が「①必要だ」と回答した小学生に、筆順指導を受けるのに適切な時期について、8つの選択肢「①小学校のあいだだけ」「②中学校のあいだだけ」「③高校のあいだだけ」「④小学校と中学校と高校」「⑤小学校と中学校」「⑥小学校と高校」「⑦中学校と高校」「⑧その他」を設け、尋ねた。その結果を、A小学校生からF小学校生に分けて示すと、【図④-2A】から【図④-2F】のようになる。併せて、小学校全体（平均）の結果を【図④-2】として示す。

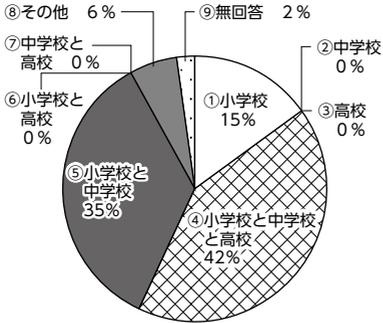


【図④-2】小学生全体

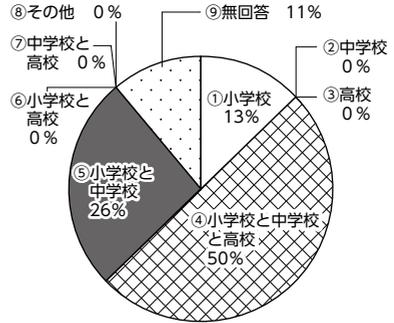
【図④-2】より、小学生全体（平均）の結果は、「④小学校と中学校と高校」が46%で最も比率が高く、その次に23%の「⑤小学校と中学校」が続いており、長期間に渡って筆順指導を受ける必要があると意識している⁷⁾。

若干の違いがあるものの、この結果と同様の結果を示しているのが、A小学校生・B小学校生・C小学校生である。これら3校生と違った結果を示しているのが、D小学校生・E小学校生・F小学校生である。

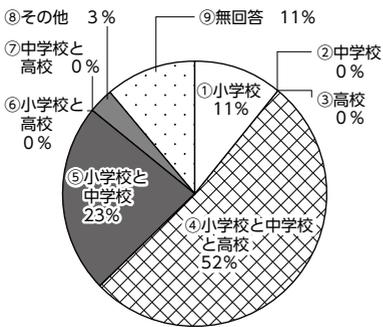
D小学校生は、「①小学校のあいだだけ」が34%、「④小学校と中学校と高校」が29%、「⑤小学校と中学校」が33%とほぼ同じ比率を示しており、3つの選択肢の間で揺れている。特に、「①小学校のあいだだけ」の比率は、他校より20%以上高く、特徴的である。D小学校生は、3.4. 「筆順指導の必要性について」で、「②必要ない」と回答した比率が他校よりも高かった。この結果も併せて



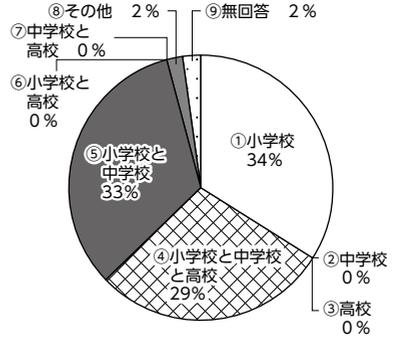
【図4-2A】A小学生



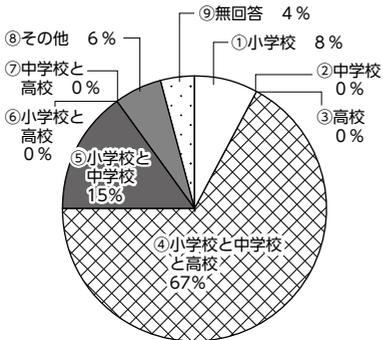
【図4-2B】B小学生



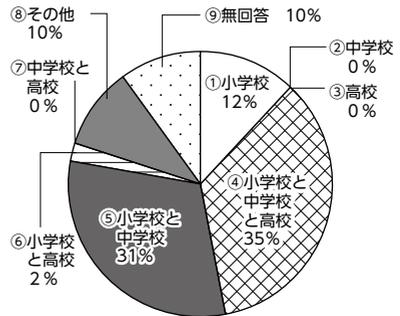
【図4-2C】C小学生



【図4-2D】D小学生



【図4-2E】E小学生



【図4-2F】F小学生

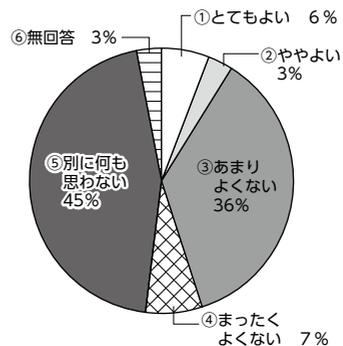
考えると、D小学校生は、他校生と比べて筆順指導の必要性をあまり意識しておらず、筆順指導を受けるとしても、他校生と比べて早い段階まででよいと意識していることがわかる。

F小学校生は、「④小学校と中学校と高校」が35%、「⑤小学校と中学校」が31%と、これらの選択肢の比率は、D小学校生とほぼ同様である。しかし、D小学校生で34%の「①小学校のあいだだけ」が、F小学校生では12%と、D小学校生より20%ほど比率が低い。D小学校生は、「①小学校のあいだだけ」「④小学校と中学校と高校」「⑤小学校と中学校」の3つの選択肢で揺れているが、F小学校生は、「④小学校と中学校と高校」「⑤小学校と中学校」の2つの選択肢で揺れていることがわかる。

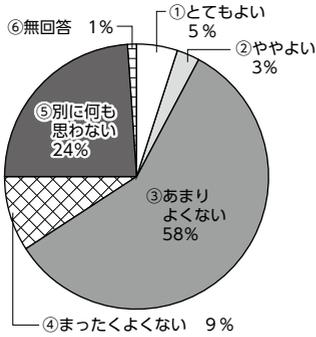
E小学校生は、D小学校生・F小学校生の2校とは異なった結果を示している。E小学校生は、「④小学校と中学校と高校」が67%で最も比率が高く、他校より長期間に渡って筆順指導を受ける必要があると意識している。E小学校生は、3.3.「筆順指導の有無について」で、「①今も受けている」と回答した比率が96%と他校生と比べて著しく高く（小学生全体（平均）は59%）、ほぼ全員が現在も筆順指導を受けていた。このような事情から、現在のみならず今後（中学校・高校）も筆順指導を受ける必要があると意識していると考えられる⁸⁾。

3.5. 他人の筆順について

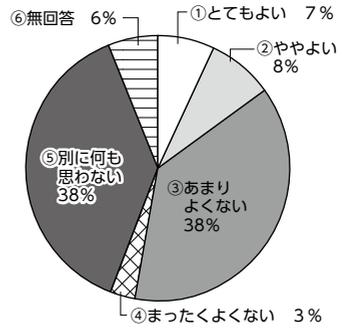
自分と違う筆順で字を書く人を見てどのような印象を持つかについて、5つの選択肢「①とてもよい印象を持つ」（図では「とてもよい」）「②ややよい印象を持つ」（図では「ややよい」）「③あまりよい印象を持たない」（図では「あまりよくない」）「④まったくよい印象を持たない」（図では「まったく



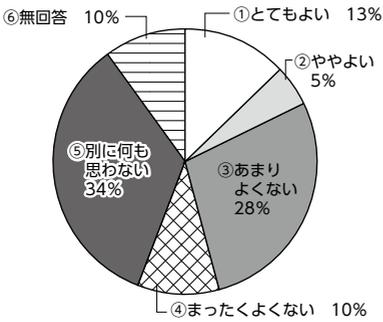
【図5】小学生全体



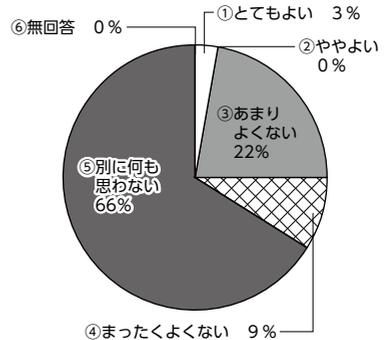
【図⑤A】 A小学校生



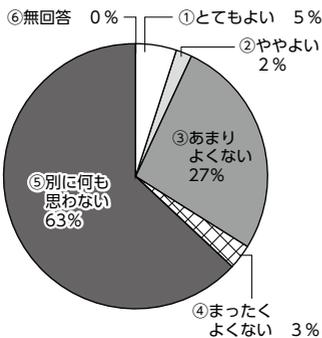
【図⑤B】 B小学校生



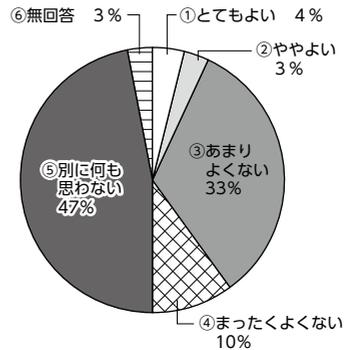
【図⑤C】 C小学校生



【図⑤D】 D小学校生



【図⑤E】 E小学校生



【図⑤F】 F小学校生

よくない)「⑤別に何も思わない(よい印象も悪い印象も持たない)」を設け、尋ねた。その結果を、A小学校生からF小学校生に分けて示すと、【図⑤A】から【図⑤F】のようになる。併せて、小学校全体(平均)の結果を【図⑤】として示す。

【図⑤】より、小学生全体(平均)の結果は、「⑤別に何も思わない(よい印象も悪い印象も持たない)」が45%で最も高い比率を示しており、半数近くが他人の筆順に対して特別な意識を有していない。しかし、その一方で、他人の筆順に対して否定的な(厳しい)選択肢である「③あまりよくない」と「④まったくよくない」を合わせた比率も43%ほどあり、「⑤別に何も思わない(よい印象も悪い印象も持たない)」とほぼ同じ比率である。小学生全体(平均)では、他人の筆順に対して、「特別な意識を有していない」もしくは「否定的(厳しい)」かのどちらかに2分されている。

若干の違いはあるものの、この結果とほぼ同様の結果を示しているのが、B小学校生・F小学校生で、A小学校生・C小学校生・D小学校生・E小学校生は違った結果を示している。

A小学校生は、「③あまりよくない」が58%で、全6校の中で最も比率が高く、「④まったくよくない」の9%を合わせると67%となり、他人の筆順に対して否定的な(厳しい)意識を有していることがわかる。

C小学校生は、小学生全体(平均)・B小学校生の結果に近いものの、これらの結果と比べて「⑤別に何にも思わない(よい印象も悪い印象も持たない)」の比率がやや低い。「⑥無回答」が他校よりも多いということが影響したものと考えられる。

D小学校生とE小学校生は、ほぼ同様の結果を示しており、ともに「⑤別に何も思わない(よい印象も悪い印象も持たない)」が60%強で最も比率が高く、他人の筆順に対して特に意識していない。また、他人の筆順に対して否定的な(厳しい)選択肢「③あまりよくない」「④まったくよくない」を合わせた比率も30%程度で、他校生より10%以上低く、他人の筆順に対して否定的な(厳しい)意識を有していないことがわかる。

3.6. 漢字学習上での苦勞について

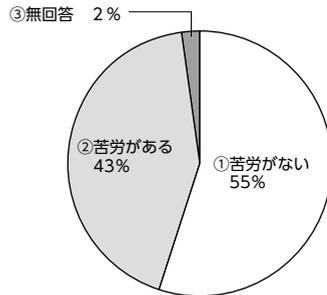
漢字学習上での苦勞の有無について、2つの選択肢「①苦勞がない」「②苦勞がある」を設け、尋ねた。その結果を、A小学校生からF小学校生に分けて示すと、【図⑥A】から【図⑥F】のようになる。併せて、小学校全体（平均）の結果を【図⑥】として示す。

【図⑥】より、小学生全体（平均）の結果は、「①苦勞がない」が55%で最も比率が高く、半数以上の小学生は、漢字学習に問題なく取り組んでいる。しかし、「②苦勞がある」の比率も43%あり、半数近くの小学生は、漢字学習上で何らかの問題を抱えている。

これまでの質問では、小学生全体（平均）の結果とほぼ同様の結果を示す小学校が存在していたが、この質問では、小学生全体（平均）の結果とほぼ同様の結果を示した小学校はなく、特徴的な結果となっている。A小学校生からF小学校生までの結果を見ると、「①苦勞がない」の比率が45%程度のタイプと、「①苦勞がない」の比率が60%を超えるタイプの2タイプに分かれる。

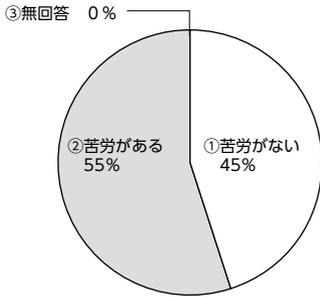
「①苦勞がない」の比率が45%程度のタイプは、A小学校生・C小学校生・D小学校生である。C小学校生には「③無回答」が8%ほどあるため、やや事情が異なるものの、その他の2校生はともに「②苦勞がある」の比率が55%程度で、半数以上が漢字学習上で何かの問題を抱えていることがわかる。

「①苦勞がない」の比率が60%を超えるタイプは、B小学校生・E小学校生・F小学校生である。「①苦勞がない」の比率が最も高いE小学校生は、その比率が68%で、約7割近くの小学生が、漢字学習に問題なく取り組んでいる（順調に進んでいるという意識を有している）。これは、E小学校の漢字指導の在り方をよく表した結果と考えられる。E小学校生は、3.3.「漢字指導の有無について」で、小学生全体（平均）の「①今も受けている」の比率が59%の中、

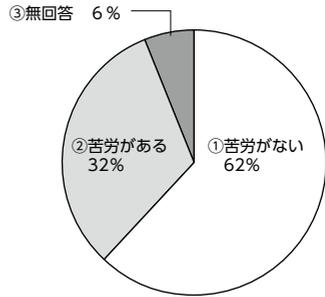


【図⑥】 小学生全体

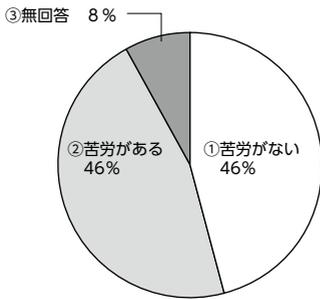
初等教育における筆順指導の現状について



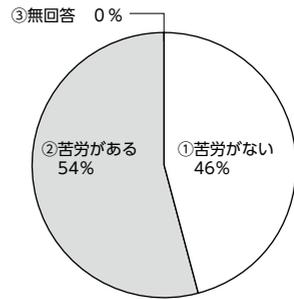
【図⑥A】 A小学校



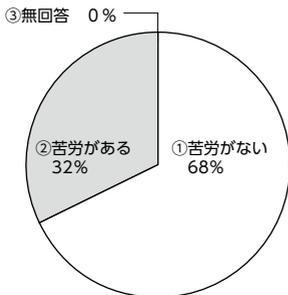
【図⑥B】 B小学校



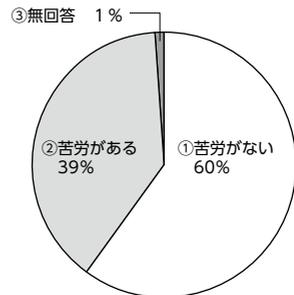
【図⑥C】 C小学校



【図⑥D】 D小学校



【図⑥E】 E小学校



【図⑥F】 F小学校

96%と非常に高く、ほぼ全員が現在も筆順指導を受けているという結果であった。多くの小学校が小学校4年生(中学年)までしか筆順指導を行わない中で、高学年にいたっても筆順指導を行うなどきめ細かい漢字指導が行われていると考えられる。このような指導によって、苦勞を感じる小学生が他校よりも少なくなるということであろう。E小学校生は、3.4.2.「筆順指導に適切な時期について」で、「④小学校と中学校と高校」の比率が他校生より高い(長期的な学習を強く意識している)という結果であったが、これはきめ細かい漢字指導によって学習上の苦勞が軽減されている(あるいはなくなる)という意識を有しているためと考えられる。漢字学習の苦勞を感じるかどうかと学習期間との関連を示唆する結果として注目される。

4. おわりに

以上、初等教育における筆順指導の実態および小学生の意識について、学校別」という観点から分析結果を述べてきた。それぞれの結果については、上記した通りであるが、最後に、高学年まで筆順指導を継続している小学校は、漢字学習に苦勞を感じない比率が高くなる(順調に学習が進んでいるという意識が高くなる)ということについて触れておきたい。

この結果は、高学年にいたるまで、きめ細かい指導を行うことで、学習者にとっても意識の面で大きな変化が見られることをあらわしている。しかし、小学生高学年になれば、漢字(筆順)だけを指導すればよいというわけではない。「国語」という教科を見ても、語彙力や読解力、さらに文章力の向上など教育すべき事項はたくさんある。さらに「算数」や「社会」「理科」など他教科にまで広げていけば、漢字(筆順)だけをきめ細かく指導することが現実的に難しいことは明らかである。そのような状況下で、小学校教員は、筆順(あるいは漢字)を「どこまで」「どの程度」指導しようとしているのだろうか。この点については、秋山英治(2012)でも一部述べているが、詳細な分析は行っていない。教わる側の小学生と教える側の小学校教員との関係について、今後の課題としたい。

注

- 1) 小学校によって回答者数に差があるが、すべての小学校で1クラス程度以上の回答者数を得られたことから、学校ごとの傾向（学校間の差）を知ることができると考え、本稿では「学校別」による分析を行った。

ただし、本稿では、「学校別」による分析を行うことを目的としていることから、各小学校の結果をさらに「性別」に分けて分析は行わない。
- 2) 小学生全体（平均）の結果については、すでに秋山英治（2012）で示しているが、学校別の特徴を明らかにする上で必要なデータとして、本稿でも再掲し、概略を述べることとする。
- 3) 2. 「調査方法及び分析方法」で述べたように、調査対象は高学年「5・6年生」で、B小学校では6年生で調査をご実施いただいた。

B小学校生で「②今は受けていないが受けたことがある」と回答した小学生のうち約8割が「小学校6年生前半まで」筆順指導を受けていたと回答しているが、調査時期が10～11月ごろであったことを考えると、調査の直近まで筆順指導が行われていたことになる。
- 4) 3.3.1「筆順指導を受ける理由について」では、「④テストなどに出るから」の比率が15%（同率で3番目）であるが、筆順指導の効果を尋ねたこの質問では「③テストなどで答えられるようになった」の比率が20%で2番目に比率が高くなっている。この結果から、多くの小学校で、筆順に関する問題が普段のテストで出されている可能性が考えられる。

しかし、3.3.「筆順指導の有無について」で、中学年までしか筆順指導が行われていない（高学年では筆順指導が重視されていない）ということから考えると、普段のテストで出されているということは考えにくい。多くの小学校で漢字能力検定試験を受検していることも併せると、ここでのテストとは、普段のテストよりも漢字能力検定試験等の外部検定試験のことを表している可能性も考えられる。
- 5) 筆順指導が不必要な理由について、秋山英治（2012）では取り上げたが、筆順指導が不必要だとする回答が少なく、「学校別」の状況を述べることができないことから、本稿では取り上げないこととする。
- 6) 注4で述べたように、「テスト」が、普段のテストよりも漢字能力検定試験を表している可能性があるとするれば、「テスト」に関する比率が低いC小学校では、他校より漢字能力検定試験等の外部試験の受検率が低いということになる。ただし、今回の調査では、漢字能力検定試験等の外部試験の受検率については尋ねていないため、詳細は未詳である。
- 7) 秋山英治（2010）によれば、高校生も長期的な筆順指導が必要だという意識を有していることがわかる。ただし、「⑤小学校と中学校」が42%、「④小学校と中学校・高校」が27%で、それぞれの比率が小学生全体（平均）とほぼ逆の結果となっており、

小学生全体（平均）ほど長期的に必要なとは意識していない。

- 8) ただし、3.4.「筆順指導の必要性について」を見る限り、E小学校生は筆順指導が「①必要だ」の比率は81%で、小学生全体（平均）とほぼ同様であり、他校生より必要性を強く意識しているわけではない。

引用・参考文献

- 秋山英治（2010）「筆順指導の実態について－高校生を対象としたアンケート調査をもとに－」『人文学論叢』第12号
- 秋山英治（2012）「国語教育・日本語教育における筆順指導の実態及び意識に関する研究」『漢字・日本語教育研究』（平成23年度漢字・日本語教育研究助成研究成果報告書）第1号
- 秋山英治（2013）「日本語教育における筆順指導の現状と課題」『愛媛大学法文学部論集 人文学科編』第35号
- 津村幸恵・外田久美・宮澤正明・杉浦妙子・河合仁・塚本宏（1999）「中学校国語科免許必修の『書道（書写を中心に）』における効果的な学習指導方法の研究と実践―筆順指導の在り方を通して―」『書写書道教育研究』第13号

付 記

本稿は、財団法人日本漢字能力検定協会平成23年度漢字・日本語教育研究助成による成果の一部である。調査に協力して下さった諸機関及び被調査者の方々に感謝申し上げます。